

きつとつながる。 吉都でつなぐ。②

平成24年には小林駅、25年には吉都線全線の開業から100年を迎えました。「吉都線を未来に残したい」「小林市を盛り上げたい」。そういつた思いを胸に、2年間取り組んできた人たちがいます。「吉都線100周年記念事業小林市実行委員会」。

今月号では、実行委員会の活動の成果や思いから、吉都線の価値と、それをどう生かし、未来につなげていくかを考えます。

利用者が減少する中で迎えた100周年

吉都線は、鹿児島県湧水町の吉松駅から都城市の都城駅に至るJR九州の鉄道路線です。小林駅は大正元年（1912年）10月1日に開業し、翌年10月8日に全線が開業。宮崎から鹿児島や熊本、博多方面へ鉄道

で向かう重要幹線として機能しました。しかし、小林駅の利用者数は、昭和59年の1日平均3300人

のピークに、平成25年には平均1200人まで減少。利用者数はピーク時から約3分の1まで落ち込み、路線の廃止も懸念されてきました。そういった状況の中、平成24、25年に小林駅と吉

都線は100周年を迎えることになりました。

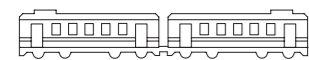
100周年を地域活性化につなげる

この100周年を盛大に祝おうと発足したのが、市民有志や団体、市職員ら50人で組織された「吉都線100周年記念事業小林市実行委員会（以下「実行委

員会）」です。目的は路線維持に留まらず、100周年をきっかけとした地域活性化や、その起爆剤となる観光列車の誘致にありました。2年間という限りある活動期間（平成24年4月から26年3月まで）の中で、

そういった取り組みと成果があったのか。元委員の思いとともに紹介します。

活性化につなげる



実行委員の成果と思い

実行委員会が企画し、行ってきた土曜夜市、街コン、駅弁、停車場市、婚活列車…。それぞれ独立したイベントのようですが、実行委員の思いを紐解くと、一つ一つが密接につながっていることが分かります。



8年ぶりに復活した土曜夜市



駅周辺、 中心市街地活性化



実行委員会 副会長
おがさわら けんいち
小笠原 賢一さん

中心市街地活性化で魅力ある駅前

実行委員会の活動の目的は、吉都線の利用促進だけではなく、100周年をきっかけとした地域経済の活性化にもあります。観光列車誘致は、その起爆剤として期待できますが、小林駅を降りたお客さんを迎えるためにも、魅力ある駅前を作り上げていく必要があります。駅前にある中心市街地の活性化は、目的を叶えるためにも欠かせないものでした。そこで取り組んだのが、「土曜夜市」の復活、仲

町を利用した大規模の出会いイベント「街コン」や、小林の魅力を外に届ける「駅弁の創作」です。実行委員会が解散しても、これらの取り組みは改善を加えながら、小林の新しい文化として継承していきたい。駅前の中心市街地に店を構える一人として、その責任も感じています。2年間の活動で培ったつながりや経験を生かし、今後も中心市街地の活性化に取り組んでいきたいです。



観光列車「海幸山幸」をおもてなし



観光振興、 観光列車誘致

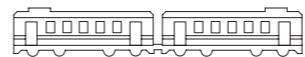
実行委員会 観光振興班
とまり ともみ
班長 泊 朝史さん

駅と各地をつなぎ市全域の魅力を発信

観光列車誘致には、沿線の魅力を知ってもらうことが必須条件です。魅力をどう伝えていくかを、ツアーや婚活列車などの企画を通し模索してきました。小林駅からバスで須木を巡るツアーを行ったところ、お土産購入の実績は予想を上回り、旅行者の購買力を実感しました。市内に点在する観光資源をつなげ、魅力的な旅行商品にすることで、市内全体に経済効果を生むことができます。そ

ここで重要になるのが「おもてなし」。おもてなしは、旅行者に小林の魅力をPRするチャンスでもあります。しっかりと魅力を伝えることが、リピーターや新規顧客の開拓につながります。これは、吉都線を利用した観光振興だけでなく、観光列車誘致にもつながります。企画を通して学んだこれらの経験やノウハウを、さまざまな団体が連携しながら、活性化に生かしていったほしいですね。

人と未来をつなぐ



実行委員の成果と思い

「吉都線は、ただの交通手段ではない。人が交流し、その思いや夢を運んできた」。実行委員会は、吉都線の価値と可能性を探り、それを生かす方法を模索してきました。大切なものを未来につないでいくために。

小林・西小林駅を憩いと交流の拠点に

駅は電車を利用するための出入り口というだけでなく、市民や利用者の憩いの場所でもあると思います。そのために、まずは環境をきれいにしようと、市民や団体の協力を借りながら、毎月1回の清掃活動を続けてきました。そして駅を花でいっぱいにしようと計画。小林駅の花だんを増設したり、西小林駅では地域の人たちと協働でヒマワリを植え、開花時期には花見も行いました。小林駅、

西小林駅2つの駅が市民に愛される憩いの場、そして交流拠点になっていけばと思います。そして利用者にも車窓から映る景色を楽しんでもらおうと、西小林に菜の花を植えました。沿線自治体にも呼びかけ、今では各自自治体も菜の花を植えています。夢は、沿線にずっと菜の花が続く、ここにしかない景色。これが目玉になり、住民の力で観光列車を呼び込めるきっかけになると思います。



地元住民も参加した花植栽事業



kitto3

沿線住民を巻き込んだ取り組み

実行委員会 副会長
ひらばる まさお
平原 賢夫さん



吉都線 PR 動画「Our Music」

kitto4

100年先へのメッセージ

実行委員会 人づくり班
わたなべ しゅんすけ
班長 渡邊 俊輔さん



吉都線にしかない歴史や価値を未来に

吉都線は100年という歴史の中で、多くの人の夢や思いを運び、ここにしかない文化を作り上げてきました。私も進学のため小林を離れたのは吉都線。車中で出会った人との会話は、今でも記憶に残っています。実行委員会では、市内外に呼びかけ、歴史や思い出の掘り起しを行いました。駅には利用者が自由に書き込める「えきのーと」を設置。中身を覗くと、老若男女さまざまな思いが書き

綴られています。またPR動画も作成し、インターネットで発信中です。これらの事業で蓄積された資料は「タイムカプセルプロジェクト」として、市立図書館に保存をお願いしました。タイムカプセルといっても100年後に開けるわけではなく、毎年、記念日である10月に展示をしてもらうことになりました。このプロジェクトで、吉都線の歴史や価値が未来につながっていくことを願っています。

実行委員会の活動は一つの節目を迎えた。

しかし、その取り組みの火は消えることはない。

「吉都線で小林を盛り上げたい」「また100年後に残したい」。その熱い思いは受け継がれていく。

活動の中で生まれた人と人、団体と団体の絆。

それを新たな燃料に、夢を乗せて走り続けていく。

吉都線の終着駅は、まだまだ先にあるのだから。

●インタビュー

実行委員会 会長 吉村 秀昭さん

これからが頑張りどころ。今後も活動を続け、新たなまちづくりにつなげていきたい

実行委員会の実績と 思いを引き継いで

実行委員会は、市の活性化、路線維持、新たな行政と市民との協働の確立を目指す活動してきました。準備検討委員会を含めると活動を始めてから、早3年。未来へのレールをつないでいくのは今を生きるわたしたちだと、前だけを向いて進んできた3年間でした。

実行委員会は解散しましたが、事業を一過性のものとして、今後も吉都線から、市全体の活性化につなげていきたいと考えています。

地元の盛り上がりで 観光列車の誘致へ

そのために最も有効な手段は、吉都線に観光列車を誘致することです。誘致には、何よりも地元の盛り上がりが必要で、観光列車

「指宿の玉手箱」のように、皆で旗を振りおもてなしをする心、「海幸山幸」の運行にも、飢肥地区の目ごころからのあいさつが、誘致につながっています。吉都線も負けていません。沿線の絆、花々、食材、水、空気、

あいさつの習慣、おもてなしの心。この可能性や魅力は今後どう生かしていくか。これからがわたしたちの頑張りどころです。

新団体を立ち上げ、 吉都線を未来へ

5月には実行委員会の活動を引き継ぐ団体を立ち上げます。実行委員会で開催したツアー、イベントや停車場市を継続して開催して

いく予定です。土曜夜市も別の団体に引き継がれます。小林駅の南北通路開通や駅舎の新築などの計画も本格化しています。この盛り上がりにつなげていきます。皆さんもぜひツアーやイベントに参加し、一緒に吉都線を盛り上げていきましょう。吉都線から始まるまちづくりに応援をお願いします。



吉村さんと、鉄道が大好きな息子の太成(3)くん